

# Ἰησοῦς イエスース

## 知っておきたいキリスト教のことば (14)

### イエス いえす

聖書の中には、名前自体に深い意味がある人物が登場することがあります。たとえばエバは「命」、ノアは「慰め」、イサクだと「彼は笑う」といった意味を持つ言葉です。わたしたちも子どもたちに名前を付ける時には、とても気をつかいます。どの漢字を使うか、どう呼ばれて欲しいか、いろいろなことを考えていきます。

「イエス」というのは聖書の時代、その地方ではごくありふれた名前だったようです。旧約聖書には「ヨシュア」という指導者が登場しますが、「イエス」という名はヘブライ語の「ヨシュア」という名の短縮した形のギリシア語です。

さて、その「ヨシュア」という名ですが、「神は救い」という意味を持ちます。そして短縮形である「イエス」も同様に、「神は救い」という意味を持つのです。

そしてここからが大事なことなのですが、「イエス」という名は、マリアとヨセフがつけた名前ではないと書かれています。右の聖書の言葉、マタイによる福音書 1 章 21 節は、主の天使が伝えた言葉です。つまり「イエス」という名は、神さまの意志によってつけられた名前なのです。

そうすると、「神は救い」という名をもつイエス様を、わたしたちはどのように理解すればよいのでしょうか。神さまの思い、そのみ心が、この名前に込められているとすれば、神の救いとその幼子の誕生とともに与えられことを知ることができるのです。

イエス様のみ名によってわたしたちが祈る時、わたしたちは神さまが救いのみ手をわたしたち一人一人に差し伸べてくださっていることを知ります。その喜びをかみしめ、今日もその名を唱えましょう。イエス様～。

次回は「異言」です。お楽しみに。



「イスランの聖母」

シモン・ヴーエ (1590-1649)

マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。

(マタイによる福音書 1 章 21 節)

